

学校 教育 目標	自主・創造・共生						
	○自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】 ○お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】 ○たくましい心と健やかな体を育てます【体】 ○社会とのかかわりを大切に、共に生きる態度を育てます【公】 ○さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】						
学校 概要	創立 51 周年	学校長	川又 美貴子	副校長	柴田 耕治	2 学期制	一般学級: 23 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 720 人	主な関係校: 旭中学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		旭中学校 中沢小学校
・自ら学び、自ら考え、行動する力 ・他を認め、協働して課題解決をする力 ・変化に対応し、創造する力		自ら学び、自ら考え、共に認め合い、 協働して課題解決を進める子ども ・主体的・対話的で深い学び、ユニバーサルデザインの授業を中心とした「共通授業コンセプト」の理念を実現するため、小中合同授業研究会を充実させる。 ・9年間で一貫した「児童生徒指導スタンダード」の定着を図るため、小中合同研修会を充実させる。

中期 取組 目標	○1小1中という恵まれた環境を生かして、小中連携を充実させ、併設型小中学校として、学習・生活の両面で9年間一貫した教育活動を行います。 ・特別支援の考え方をもち、授業のユニバーサルデザイン化を図ります。 ・人とのかかわりの中で居場所や役割を実感させ、自尊感情や社会性を育成します。 ・地域と連携・協働しながら、社会で求められる資質・能力を子どもたちに育みます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子どもたちが安心して学習に参加できるように、教師が教材研究を丁寧に行い、既習を生かして自分の力で問題解決に臨めるようにする。 ②話し合い活動を通して育てたい子どもの姿を教師が意識し、子どもの考えを生かして学習がすすむよう教材研究をする。 ③地域の方とつながって学んだ経験をもとに、子どもたち自身が地域を構成する一員であるという自覚を高め、地域社会に積極的に参画しようとする意欲を高める。
担当 教務・D部会	
豊かな心	①小中合同の行事やたてわり活動、学校行事が子ども主体の取組として成立するよう、年間の行事予定を具体的な子どもの姿を想像しながら意図的に配列したり活動のねらいを明確にしたりする。 ②めあての実現にむけて活発に話し合うことができるようになった子どもたちの姿や実感が中沢小の文化として定着するよう、職員が意識をして取組を進める。
担当 B部会・D部会	
健やかな体	①休み時間を分散して設定することで、感染症対策に配慮しつつ子どもたちが運動に親しむ環境の整備を進める。 ②子どもたちの心の安定を大切に、スタートカリキュラムを全学年で実施する。また、子ども一人ひとりの教育相談、心のケアアンケートの実施、保護者との個人面談、学校保健委員会や朝会での発信を通して、心の健康の大切さを児童に伝える。 ③子どもたちが緩やかに学校生活に適應できるよう年間行事予定を意図的に配列する。
担当 教務・A部会・C部会	
特別支援教育教育	①中沢小学校スタートカリキュラムを全学年で実施し、進級時や長期休暇明けの子どもたちの不安を職員が意識した上で、緩やかに学校生活に適應できるようカリキュラム編成を行う。 ②教育課題解決部会を軸に、各学年の児童の状況や支援の在り方を定点で確認する。 ③個別級児童と一般級児童の日常的な交流を定着させる。また、子どもたちが進んで関わり合うような見通しをもった指導を進め、子どもたちにとっても日常的な交流をすることの良さを実感させるようにする
担当 特支C	
地域連携・ 学校運営協議会	①学校運営協議会を学校教育の情報共有・情報発信の場として活用し、学校と地域が協力して子どもを育てていることを共有する ②地域・防災科のカリキュラム編成を進め、段階的に1～5年生への教育課程の拡大を行う。そのために、研修等を通して学校と地域のニーズを実現する地域・防災科の理念を年度当初の早段階から教職員が共有できるようにする。 ③これまでに培った保護者や地域とのつながりを大切に、様々な人が学校教育に参画できる取組を、計画的に進める。
担当 教務・D部会・小中一貫担当	
キャリア教育	①子どもたちが培った地域の方とのかかわりをもとに、さらに交流を深め、子どもたちが地域の一員であるという意識がもてるよう年間計画を立案する ②子どもが成長を実感したり、新たなめあてをもったりできるようにするために、キャリアパスポートをどのように活用すればいいか、定期的な研修や学年研等の取組を計画的に進める。
担当 特活	
いじめへの対応	①いじめが起これば学校・学級風土づくりに向けて、職員が小中授業コンセプトや児童・生徒指導スタンダードの理念を理解し、子どもたち一人ひとりが役割を意識したり、共通の目標をもって活動に取り組めたりできるような取組を進める。 ②児童支援専任を中心に、いじめの早期発見や対応の精度を高められるよう、対応状況について進捗具合のチェックを行い、組織的な対応力を高める。また、校内研修と計画的に行い、実践につなげていく。
担当 A部会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①主幹教諭を中心に主幹会、教務会、教育課題解決部会を組織的に活用し、目指す学校づくりへの考え方や意図が共有された学校運営を進める。 ②初任者や臨時的任用職員を含めた経験の浅い職員が、授業力の向上や子どもたちが安心できる学級運営について率直に意見交換ができるようメンターチームと担当者を配置する。
担当 教務	